

第109回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	売	掛	金	買	掛	金
仕	入	売		上		受	取	手	支	払	手
繰	越	商	品	支	払	保	険	料	前	払	保
建		物		建	設	仮	勘	定	建	物	減
未	払	金		仕	入	割	引		売	上	割
損		益		繰	越	利	益	剰	余	金	別
火	災	損	失	保	険	差	益	途	積	立	金
											未
											決
											算

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
2. 決算において、当期純利益 ¥ 100,000 を計上する。
3. 前期末において、向こう3年分の火災保険料(1年分が ¥ 30,000)を繰延処理し、前払保険料勘定に ¥ 30,000、長期前払保険料勘定に ¥ 60,000 を計上していた。当期の決算に当たり、適切な費用の期間帰属のための処理を行う。なお、当期首において再振替仕訳は行っていない。
4. 12月20日に商品 ¥ 500,000 を仕入れ、代金は掛けとしていた(なお、この買掛金については、12月30日までに支払えば代金の1%の割引を受けられることができる)が、本日(12月29日)、買掛金 ¥ 200,000 につき、仕入割引を計上するとともに、残額は小切手を振り出して支払った。
5. 本日(6月15日)、火災により焼失した建物(取得原価 ¥ 1,000,000、残存価額 ¥ 100,000、耐用年数9年、間接法により記帳)について請求していた保険金 ¥ 600,000 を支払う旨の連絡を保険会社から受けた。なお、当該建物は、当期首(4月1日)からさかのぼって5年前に取得したものであり、4月1日の火災により焼失した際に、期首時点の簿価の全額を未決算勘定に振り替えていた。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
2	損 益	100,000	繰越利益剰余金	100,000
3	支払保険料	90,000	前払保険料	30,000
	前払保険料	30,000	長期前払保険料	60,000
	長期前払保険料	30,000	支払保険料	60,000
別解	支払保険料	30,000	前払保険料	30,000
	前払保険料	30,000	長期前払保険料	30,000
4	買掛金	200,000	当座預金	198,000
			仕入割引	2,000
5	未収入金	600,000	未決算	500,000
			保険差益	100,000

・解説

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

2. 決算振替仕訳に関する問題です。

本問は勘定の流れをきちんと理解されている方にとってはボーナス問題ですが、逆に理解が浅い方にとっては手も足も出ない問題になります。決算振替仕訳は、費用と収益を損益勘定に振り替え、さらにその損益勘定を繰越利益剰余金勘定に振り替えていく作業です。

決算振替仕訳に関する問題は第 116 回の問 4 でも出題されていますが、難易度の割りに出題可能性の低い論点なので、時間がない方はバツサリ切るのもひとつの手だと思います。

3. 一年基準に関する問題です。

本問はまず前期末の仕訳を考えたらうで当期末の仕訳を考えましょう。

■前期末の処理

費用（支払保険料）の繰延べの仕訳を切ります。具体的には、決算日の翌日から起算して 1 年以内に期限の到来するものは前払保険料勘定に振り替え、1 年を超えるものについては長期前払保険料勘定に振り替えます。

本問は、問題文に「前期末において、向こう 3 年分の火災保険料（1 年分が ￥ 30,000）を繰延処理し、前払保険料勘定に ￥ 30,000、長期前払保険料勘定に ￥ 60,000 を計上していた」と分かりやすく書いてあるので、この仕訳は特に問題ないと思います。

☆参考・前期末の繰延処理の仕訳

(借) 前払保険料 30,000 / (貸) 支払保険料 90,000

(借) 長期前払保険料 60,000

■当期末の処理

問題文に「**当期首において再振替仕訳は行っていない**」とあるので、まずは再振替仕訳を切りますが、**前期末に切った仕訳の逆仕訳**をするだけなのでこちらも特に問題ないと思います。

★解答①・・・再振替仕訳

(借) 支払保険料 90,000 / (貸) 前払保険料 30,000
(貸) 長期前払保険料 60,000

また、当期末も前期末と同様に費用（支払保険料）の繰延べの仕訳を切ります。前期末に3年分の保険料を繰延処理しているので、当期末は**残り2年分**について繰延処理を行います。

具体的には、1年以内に期限が到来する1年分（30,000円）を前払保険料勘定に振り替え、1年を超えるもう1年分（30,000円）を長期前払保険料勘定に振り替えます。

★解答②・・・決算整理仕訳

(借) 前払保険料 30,000 / (貸) 支払保険料 60,000
(借) 長期前払保険料 30,000

以上、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

なお、上記の考え方とは別に、前期に計上した前払保険料勘定を支払保険料勘定に、長期前払保険料勘定（1年分）を前払保険料勘定に振り替える仕訳でも正解です。

一年基準に関する問題は第139回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 仕入割引に関する問題です。

商品仕入時の契約により、所定の期日内に掛け代金を支払った場合に、一定額の割引（キャッシュバック）を受けられることがあります。

本問の場合は、問題文の「**12月30日までに支払えば代金の1%の割引を受けられる**」という条件を満たすことにより、1%の割引を受けられます。

なお、仕訳自体はとても簡単です。返済額の1%の2,000円（ $=200,000 \text{円} \times 1\%$ ）を**仕入割引**で処理するとともに、残額の198,000円（ $=200,000 \text{円} - 2,000 \text{円}$ ）の支払いを当座預金で処理します。

仕入割引に関する問題は、第120回の間3や第142回の間4、第148回の間1でも出題されているのであわせてご確認ください。毎回ほとんど同じ形式で出題されています。

5. 固定資産の滅失に関する問題です。

本問はまず資産が焼失した時の仕訳を考えましょう。

建物減価償却累計額は、問題文に「**当該建物は、当期首（4月1日）からさかのぼって5年前に取得したものであり、4月1日の火災により焼失した**」とあるので、**5年分の減価償却費**を計算します。

- ・建物減価償却累計額 = $(1,000,000 \text{円} - 100,000 \text{円}) \div 9 \text{年} \times 5 \text{年} = 500,000 \text{円}$
- ・焼失時の帳簿価額 = $1,000,000 \text{円} - 500,000 \text{円} = 500,000 \text{円}$ （→未決算）

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 建物減価償却累計額 500,000 / (貸) 建物 1,000,000

(借) 未 決 算 500,000

そのうえで、問題文に「請求していた保険金 円 600,000 を支払う旨の連絡を保険会社から受けた」とあるので、保険金受取確定額 600,000 円と未決算勘定 500,000 円の貸借差額 100,000 円を保険差益で処理します。なお、現時点では保険会社から連絡を受けただけでまだお金を受け取っていないので、未収入金勘定を使って処理します。

★解答・保険金の受取が確定したとき

(借) 未収入金 600,000 / (貸) 未 決 算 500,000

(貸) 保険差益 100,000

固定資産の滅失に関しては、「滅失時（上記の参考仕訳）」または「保険金の受取額確定時（本問の解答仕訳）」のどちらかの仕訳が問われます。

仕訳のポイントは、「固定資産が滅失したときの帳簿価額を未決算勘定に振り替える」「保険金の受取額が確定したら、未決算勘定との差額を特別損益で処理する」の2点です。

固定資産の滅失に関する問題は、第 100 回の問 3や第 108 回の問 3、第 114 回の問 4、第 119 回の問 5、第 122 回の問 4、第 126 回の問 1、第 131 回の問 1、第 138 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。本問は、第 114 回の問 4とほとんど同じ問題です。